

ピコピコハンマーアンケート

大阪大学経済学部 佐藤謙奨
大阪大学大学院経済学研究科 松村真宏

1. 背景

選択肢が多いアンケートの回答率は低く、思うような結果を得られないことが多い。その原因として、選択肢が多く読むのも答えるのも面倒くさい、ということが挙げられる。そこでもぐら叩きから着想を得て、「叩く」という楽しさを加えることで、選択肢が多いアンケートの回答率が高まると考えた。

2. 仕掛けについて

段ボールで作成した土台に48個のカウンターを差し込み、ピコピコハンマーでカウンターを叩くと回答できるようになっている。仕掛けの大きさは横60cm、奥行き40cm、縦45cmであり、実験はハンマーありとなしで行った。



3. 実験詳細

日時：2024/12/10、12/24、2025/1/21 各2時間
場所：大阪大学豊中キャンパス 共通教育棟前
測定項目：通行人数、仕掛けを見た人数、回答者数
対照実験：紙のアンケート用紙にペンで答えるアンケート

4. 実験結果

	通行人数	立ち止まって見た人数	回答者数
紙とペン	1271	20	15 (1.18%)
仕掛け(ハンマーなし)	923	99	63 (6.83%)
仕掛け(ハンマーあり)	1222	121	※63 (5.16%)

※叩いて回答した人数は21(1.72%)

5. 分析結果

	Coef.	Std. Err.
(Intercept)	-4.43	0.260***
hammer	-0.30	0.184
counter	1.81	0.291***

ロジスティック回帰分析の結果以下のことが分かった。

- ①ハンマーでカウンターを押す回答方法は、回答率に有意な影響を与えない
- ②手でカウンターを押す回答方法は、有意に回答率を向上させる

6. 考察

今回の実験では、紙とペンを用いたアンケートに比べ、仕掛けのアンケートの回答率の方が高かった。しかし予想に反し、ハンマーを持ち叩いて回答する人は少なく、カウンターを直接手で押して回答する人が多く見受けられた。このような結果になった要因として、ハンマーを叩いて回答することの恥ずかしさや回答のしにくさ、ハンマーとカウンターの関連性の低さなどが考えられる。